

# ひだまり

秋田大学教育文化学部・教育学研究科 後援会情報誌

平成27年3月1日 第5号

愛称「ひだまり」は、教育文化学部が「秋田の文化の温かさ」の集まる日溜まりのような場所となり、皆様にその暖かさが届きますようにという願いを込めて名付けられました。

2015 Vol. 6

もくじ

秋田県内の外国語表記の調査を通して学んだこと	1
後援会活動報告(後援会長), 就職・進学が決まった学生からメッセージ	2・3
教育文化学部就職活動支援(キャリア委員長), 就職内定状況	4
就職情報室利用学生インタビュー/旭水会のご案内	5
教員採用支援講座「スタージュ」を開講しています/学部長あいさつ/大学・学部関係行事予定	6

## 秋田県内の外国語表記の調査を通して学んだこと

私たちは地域文化学科の授業である「地域学基礎」で、「公共表示における外国語表記の調査」をテーマに、Morita先生、上田先生、勝守先生のご指導の下、秋田市の外国語表記を調査しました。

今回私たちは、国際化が進む社会の中で、秋田では外国人のための表記がどのくらいあって、それらは正しく書かれているのかに注目しました。調査は、フィールドワークを中心に行い、バス・タクシーなどの交通機関、寺や神社などの歴史的施設、博物館や美術館などを調査対象にしました。調べてみると、外国語表記が全くなかった場所も見られましたが、英語だけでなく、二種類の中国語、韓国語の表記がある場所もいくつかあり、さらにはフランス語の表記がある施設もありました。

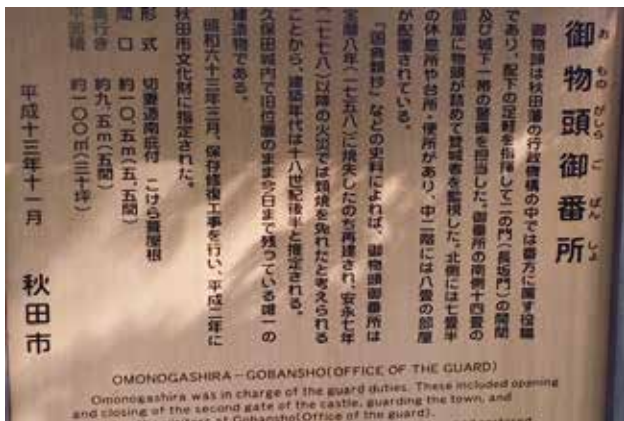
この授業は英語で行われたため、ただ調査をしただけでなく、自分たちのスキルもアップできたと感じています。また、身近な地域を見つめる視点、海外を意識する視点の二つの視点からのこの調査は、地域文化学科ならではの有意義な授業だったと思います。

私たちはどちらも県内出身ですが、今回外国語の表記を調べるに当たり、日本語がわからない方の気持ちで調査を行ったので、第三者的な視点から秋田を見直すことができました。改善点はまだまだありますが、決して閉鎖的でなく、海外の方にも受け入れてもらえるよ

うな地域づくりをしている姿勢があることを知りました。

最後に、この調査に当たって写真撮影や質問に快く応じていただいた皆様に感謝しています。今後もこのような活動を通して秋田の魅力在海外の方に伝えられればよいと思います。

教育文化学部地域文化学科 1年次  
伊藤 澪未, 東海林 みどり



# 後援会活動の一層の充実を

教育文化学部後援会 会長 古澤 清明

秋田大学教育文化学部の後援会会員の皆様、並びに教職員の皆様におかれましては、日頃から当会へのご理解とご支援をいただき誠にありがとうございます。

さて、今年度もまもなく終わろうとしています。これは同時に新たな始まりをも意味しています。特に卒業生は、新しい社会への旅立ちに胸を高鳴らせているのではないのでしょうか。大きな成長の陰に、学生自身の努力があるのはもちろんですが、そこには教職員の皆様の親身になった指導も大きく関わっています。本学部においては、学生たちの学びの充実に向けて個別に相談にのるなど、学生の実態を踏まえた細やかなサポートをしてくださっております。このことが、学生たちの安心感を高め、学ぶ意欲を向上させる原動力になっているのではないかと感じています。

また、就職活動においても、専任の職員を配置した就職情報室の運用や、就職セミナー、教員採用支援講座「スター

ジュ」、「スプリングキャンプ」「オータムキャンプ」など、学生の主体性や共同性を生かした取組をしていただいております。

後援会としては、今年度7月19日に理事会、並びに総代会を開催し、それを受けて各地区会を開催しました。その際には、大学の先生方にご出席くださり、前述した大学の具体的な取組や就職状況をはじめとした様々な情報を、詳細にわたって提供していただきました。今年度も、学部課程においては、昨年同様に就職内定率が上昇しているというお話をお聞きして、多様な取組の成果の表れであると感謝しております。学部再編という大きな変化の中で、今後も後援会として、学生一人一人が充実した大学生活を送り、将来の道を拓いていけるよう、一層の支援の充実を図って参りたいと思っております。

会員の皆様には、今後も会費納入をはじめ、各方面でのご協力をお願い申し上げます。

## 就職・進学が決まった学生からメッセージ

平成26年12月21日(日)に開催した中央地区会にて、4年生就職活動・大学院合格体験発表を行いました。参加された方からの反響も良く、今回改めて本誌に掲載します。保護者の方のみならず、学生にとっても参考になる内容です。

### たくさんの支え

教育文化学部 学校教育課程

教科教育実践選修 石川 菜津美



教育実習をきっかけに教師という道を目指して取り組んだこの1年間は、前までの消極的で自信のなかった自分自身を大きく成長させてくれました。この「教師になる」という1つの夢を叶えられたのは、自分の努力以上に支えてくれた人の存在が大きいと感じています。

この1年を振り返ってみると、秋田県の採用状況が関東方面に比べてまだそれほど良くないこと、問題が難しいことなどもあり、「絶対に一発で合格する」というよりは「1つ1つ今できることを精いっぱい頑張ろう」という思いで最後まで取り組んでいた気がします。しかし、1人では絶対に最後までやりきれませんでした。私の試験に対するモチベーションを高めてくれたものの1つに、教員採用支援講座であるスタージュがあります。スタージュでは、教師を志す仲間が集まり、教育トピックについて調べたことをグループごとに発表したり、集団面接・討論の練習をしたりしました。ここで仲間と取り組んできたことが、教師になりたいという気持ちや、みんなと一緒に受かりたいという思いを強くしました。試験当日も、同じ会場に仲間がいるというだけでとても心強かったです。

また、先生方にもたくさんの支援をしていただきました。体育実技では、できなかった側転と平泳ぎのコツを教わり、克服することができました。また、模擬授業を繰り返し何度も見

ていただき多くの助言を得たことで、試験でも全力を出して臨むことができました。他にも志願書や小論文の添削、面接の試験官役など、数えきれないほどたくさんの支援があり、乗り越えられたのだと思います。

教員採用試験を通して、自分の良さを見つけました。それはどんなときでも笑顔で居られることです。この自分の良さを生かして、子どもや周りの人に安心感を与えられる教師になりたいと思っています。秋田大学で仲間と頑張ってきたことや先生方に教わったことを忘れずに、教師としての道を歩んでいきたいです。

### 臨床心理士への一步

教育文化学部 学校教育課程

発達科学選修 進藤 晴美



私が大学院への進学を決めたのは、高校3年生のときの「臨床心理士を目指してみないか」という父の一言がきっかけでした。私は昔から自分や相手の考えていることや、人の話を聴くということに興味がありました。そのため、臨床心理士という職業に魅力を感じ、臨床心理士になりたいと思うようになりました。そして、一年間の浪人時期を経て、主に心理学を勉強できる地元の秋田大学の発達科学選修に進学しました。大学の4年間、臨床心理士になりたいという思いは変わることがなく、早くから大学院進学を意識していました。

進学に向けて最初に始めたのが情報収集です。大学院に進学した先輩に、どんな勉強をしたのか、どんな参考書を使ったのかなどを聞き、入試へのイメージを固めていきました。日頃心掛けたことは英語と心理学の授業に真剣に取り組むことです。秋田大学大学院の入試では、英語と専門科目の2科目から出題されます。先輩から授業で学んだことが一番大切だという話を聞いていたので、英語と心理学の授業には特に力を入れて取り組みました。そして、4年生の4月から入試に向けて本格的に勉強を始めました。できるだけ多くの過去問を解いたり、授業で学んだことをもう一度見直ししたりしました。また、同じく進学を目指す友人とどんな勉強が必要かを話し合いながら勉強しました。7月からは大学院で何を研究したいかについて具体的に考え始めました。卒論指導担当の先生に相談し、漠然と考えていた研究内容を明確にしていきました。

入試まで、不安になったり挫けそうになったりすることが何度もありました。しかし、その都度、不安なことを先輩に相談したり、友人と励まし合ったりすることで勉強へのモチベーションを上げることができました。入試を終えてみて感じたことは日頃の努力の大切さです。毎回の授業の予習・復習や専門科目の勉強は、「合格」へ向けて計画を立てながら少しずつ進めていかなければならないと痛感しました。目標に向けてどう行動するかが合格の鍵だと思います。これから大学院でも臨床心理士になるための努力を積み重ねていきたいです。

## 多くの人に支えられて

教育文化学部 地域科学課程  
政策科学選修 沼田 涼太



私が公務員を目指したきっかけはもともと非常に小さなものでした。夢や将来の目標がなく日々を過ごしていた私は、大学1年生の時に部活動の先輩が公務員の勉強をしているということを耳にしました。そのとき部活動と公務員試験に向けた勉強を両立させている先輩の姿を「大変そうだけどかっこいい」と思いました。これをきっかけに自分自身で公務員について調べるようになり、気付いたら公務員という職業に魅力を感じるようになっていました。

いざ公務員試験に向けて勉強を始めようとしたとき、私の前に立ち上がったのは莫大な科目数でした。何から始めればいいのかかわからず、なかなか勉強に手を出せなかった自分を救ったのは秋田大学の公務員試験を経験した先輩方の助言でした。また、同じく公務員試験を受ける友人との情報交換も積極的に行うことで、徐々に自分の勉強法が確立されていきました。多くの人が公務員試験の最初の難関である莫大な勉強量には悩まされると思います。限られた期間で効率よく勉強するためにはいち早く自分に合った勉強法を確立させることが大事になってきます。現在、公務員を目指して勉強に不安を持っている人がいれば、1人で抱え込まず誰かに相談してみてください。必ず突破口が見

つかるはずですよ。

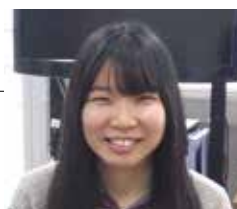
試験本番は体調に気を付けて、今までやってきたことを信じて立ち向かうだけです。面接も最初は緊張しますが、秋田大学では職員の方々やOBの方々など多くの人が面接練習を企画して支援してくれるので心配はいりません。私は面接の内容よりも元気よく、普段の自分を出せるように心がけました。

公務員試験を振り返ると、周りの人たちの助けは必須であるように感じます。私が秋田県庁に合格することができたのも家族、友人、職員の方々、先輩方の助けがあったからです。これら多くの人たちに恩返しできるよう、今後は秋田のために全力で頑張っていきたいです。また、機会があれば秋田大学OBとして公務員を目指す学生の方たちを支援していけたらいいと思います。

## 自分を知ること

教育文化学部 国際言語文化課程

国際コミュニケーション選修 三浦 奈月



「私はこんなに頑張っているのに、結果が出ない」就職活動を振り返ると、悔しい思いをしてばかりでした。就活講座を受講し、早い時期から就職活動を意識し準備を進めていましたが、いざ選考が本格化すると、面接が通らない日々が続きました。「私は何がしたくて、何を伝えたいのだろう」と、突き詰める必要がありました。

そこで自己分析をやり直し、今までの人生を振り返ることで、自分が嬉しいと思うときや頑張れたときには、どんな特徴があるのか考えました。すると「人に頼られる」「人の為に尽くしている」という状況が、一番やりがいを持って頑張れると気づき、「欠かせない当たり前を支える」「お客様に全力を尽くす」という2つの軸が見えました。

さらに、「自分を伝えること」は就職活動で最も大切で、大変でした。自分のことを知ることが、ここまで難しいとは思いませんでした。私は、今までの経験とその時の思いや行動をまとめたノートを持ち歩き、何度も何度も自己分析をしました。他己分析をしたことも、自分を知るきっかけとなりました。そうして、嘘のない自分の姿を面接で伝えられるようになり、選考を突破出来るようになりました。

結果的に、金融機関に内定を頂くことが出来ました。生活に欠かせないお金を、誰もが安心して使用するために必要な仕事です。私たちの仕事により、今日も秋田の人が当たり前にお金を使用できる、そんな責任ある仕事を担う一員として、春から働くことが楽しみです。

就職活動は、努力と結果が必ずしも比例しないのではないかと思います。内定を取るには企業と自分がマッチするか、ただそれだけです。ですから、自分は自分と考え、他の人と比べないでください。全く同じ就職活動をしている人は1人もいません。他の誰でもない自分を必要としてくれる企業に、必ず出会う日が来ます。その日まで、悔いの残らないような就職活動をしてください。応援しています。

# 教育文化学部の就職支援活動について

キャリア委員長 林 良雄

ご承知の通り、本学部の就職支援については、教員、公務員、一般企業と分けて活動しております。それぞれについてご説明いたします。

教員採用試験については、通常の授業で学ぶ内容を十分身につけていることが最低限必要ですが、それ以上に、教師としてやっていけるかが面接等で確かめられます。本学部ではこれに対応するために、授業外にスタージュという、学生が自主的に参加する講座を週二回行っております。

今年度の教員採用試験の結果ですが、昨年度と同じ程度の成果が上がっています。秋田県の採用試験では現役合格者は若干の増加で、小学校の合格者が比較的多くなっております。ただ、秋田県の採用数についてはまださほど多くはありませんので、他県と併願するケースが多く、併願する他県で一番多いのが千葉県となっております。

公務員についても正規の合格者は昨年並みとなっております。このところ、公務員志望者がかなり増加しており、支援の強化を進めております。公務員志望の学生の多くは公務員に関する知識がない上に、公務員になり何をしたいのかもわからないのが実情です。まずはその部分について、2年生でしっかり考えさせることが必要であるという観点、および3年生までに何を勉強すべきか、ということから指導を行っていく予定です。

民間企業への就職についてです。平成26年度は

就職状況が改善してきており、27年度についても同様の傾向といわれています。ただ、採用活動のスケジュールが大きく変わり、3月広報解禁、8月採用活動解禁となって、従来より4か月ほど後ろ倒しになります。内定は10月で変わらないので、採用活動が短期間になることから、8月の前に水面下での採用活動が行われることが予想されています。就活を行うお子様をお持ちの方は、早め早めの行動をご指導いただければ幸いです。

どの就職でも、本学部キャリア委員会および後援会のご支援で運営しております就職情報室できめ細かい対応をしておりますので、何か困ったことが有りましたら、ご相談くださるよう、お子様にお伝えください。



2月末データ

就職内定状況

学部・課程等名	卒業 予定者数	進学 予定者数	求職者数			就職内定者数			就職内定率			その他
			合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	
学校教育課程	99	7	87	31	56	65	20	45	74.7	64.5	80.4	5
地域科学課程	66	0	65	34	31	60	31	29	92.3	91.2	93.5	1
国際言語文化課程	73	1	70	13	57	60	10	50	85.7	76.9	87.7	2
人間環境課程	62	4	57	36	21	40	25	15	70.2	69.4	71.4	1
小計	300	12	279	114	165	225	86	139	80.6	75.4	84.2	9
教育学研究科	24	0	24	11	13	14	7	7	58.3	63.6	53.8	0
合計	324	12	303	125	178	239	93	146	78.9	74.4	82.0	9

## 就職情報室 利用学生インタビュー

後援会の会費で運営されている就職情報室。普段、学生はどのように利用しているのかインタビューしました。



インタビューに答えてくれたみなさん(前列左より)

就職情報室 村上さん  
学校教育課程教科教育実践選修4年次 長雄葉月さん  
学校教育課程教科教育実践選修4年次 小番華歩さん  
(後列右より)  
就職情報室 信太さん  
地域科学課程文化環境選修4年次 佐藤功平さん  
地域科学課程文化環境選修4年次 鈴木雄樹さん

### Q:就職情報室をどのように利用していましたか?

**長雄:** 3年生の冬頃から週に2, 3回程度利用していました。教員志望で、専門ではない校種の試験を受けることにしていたので、何から始めていいか分からなかったのですが、過去問や面接などの情報をたくさん得ることができ、とても役立ちました。

**佐藤:** 就職活動中は週に3回程利用し、資料収集や就職活動についての相談をしていました。就職活動は精神的に大変でしたが、就職情報室で話を聞いてもらえるだけでも、とてもありがたかったです。また、内定した先輩方の話を聞くこともでき、就職に対して具体的なイメージをもつことができました。

### Q:利用してみて良かったことはありますか?どんな場所ですか?

**小番:** 4年生になってから本格的に就職活動を始め、相談できる先輩方が卒業された後だったため、分からないことが多かったのですが、就職情報室でたくさんサポートしていただき、安心して勉強に集中することができました。資料や試験の情報を得ることができるので、就職活動中だけでなく、1・2年生の皆さんにもぜひ利用してほしいと思います。

**鈴木:** エントリーシートや面接の練習をしていただき、無事に内定をいただくことができました。内定後もビジネスマナーなどを教えていただき、とても役立ちました。気楽に利用できる場所なので、積極的に利用してほしいです。

### Q:最後に、ご両親へのメッセージをお願いします。

**長雄:** 試験勉強中は、両親に様々な面で支えてもらい、感謝しています。これからは親孝行をたくさんしたいと思います。

**小番:** 良い学習環境と学習機会に恵まれながら4年間過ごすことができ、感謝しています。これからも頑張りたいと思います。

**佐藤:** 就職について、働く場所や職種を自由に選ばせてもらいました。好きなことを選ばせてくれて、感謝しています。

**鈴木:** 大学生生活の4年間を通して、改めて両親のすごさやありがたみを感じました。これからは少しでも恩を返せるように頑張ります。

**Q:ありがとうございました。**

## 旭水会のご案内

旭水会会長 大友 康二



同窓会といえば、形が決まっ  
ていて、日常的活動は、単なる連絡・  
調整のみである。活動するのは、創  
立〇〇周年だとか、あるいは、母校  
のスポーツ・文化全体の全国的め  
ざましい活動への応援寄附集めな  
どが主となる場合が多い。

私たち旭水会・みなさんの同窓会は、少し形を変えている。それは同窓会として事業をもっていることにある。

ローカル線の廃止の方向を聞き、内陸線と鳥海山麓線の乗車利用の推進活動である。四年間続けてきたが、効果の程はともかく、多くの人が関心を持ったことは間違いない。スローガンは「一年一回乗車」として活動してきた。

本年度からは、「ローカル線利用運動」に加えて、「一筆運動」を提唱している。一筆運動とは、最近文字を扱うさまざまな機械ができて、人々が日常生活でもあまり「書く」ことをしなくなったことへの抵抗である。「文字は人をあらわす」とまで言われてきたのに、自分で書かなくとも機械を扱う・捨てるで文字ができています。自分の文字を書く必要がなくなってきたのだ。

このままでは、文字は次第に忘れられてゆくのではないかの懸念である。

自分の文字を持つ、書こうがこの運動のねらいである。協力下さればうれしい。

## 教員採用支援講座 「スタージュ」について

教育文化学部では教員採用試験を受験する学生を対象に、「スタージュ」という講座を開設しています。この講座では一般の授業では十分にできない集団面接や小論文の対策を行っています。

現在、このスタージュは月曜、水曜の週二回行っております。月曜についてはキャリア委員会の教職部門で担当し、各県教委の説明会を中心に、面接練習などを行っております。水曜については教職キャリア支援室(大学教員とフェローと呼ばれる退職なさった小中学校等の先生方が共同して運営)が担当し、時事問題や集団面接、小論文対策等を行っています。

水曜スタージュの運営については参加する学生が自主的に行っており、主体的に学び、活動するようになっていきます。スタージュは基本的には教員採用試験対策ということになりますが、学生の自主的活動の中から、教員になる自覚と教員を目指す学生たちの連帯感も育ち、教員採用試験への意識が非常に高まります。対象は主に学部3年生以上及び修士1年生以上ですが、学部1年生、2年生も参加可能で、早い段階から教員を目指して頑張る学生には、強い動機づけとなっています。

今年度も昨年度に引き続き、定期のスタージュ以外に二つの合宿を行いました。一つは春の「スプリング・キャンプ」で、これはこれから教員採用試験に臨む4年生にその意識を高めてもらうことが主眼となります。もう一つは秋の「オータム・キャンプ」で、これは3年生に教員を目指す意識をより高めることと教員になるのに必要なことは何か、教員採用試験とはどんなものなのかについて理解を深めることが目的です。ここには教員に合格した先輩も参加してもらい、3年生へのアドバイスをさせていただきました。

どちらの合宿においても、参加者からは「モチベーションが高まった」、「先輩からノウハウを得ることができた」などという意見が出て、大変好評でした。

合宿の実施には後援会のご支援を頂いております。この場を借りて御礼申し上げます。



スタージュ・スプリングキャンプ



スタージュ・オータムキャンプ

## 学部長あいさつ

教育文化学部長 武田 篤

後援会は、大学とご父母の皆さまとの相互理解と親睦を図ることを目的に設立された会です。これまで、ご子息・ご息女が充実した学生生活を送っていただくための支援活動はもちろんのこと、就職活動に対しては完全就職実現を目指し、重点的な支援をいただいていることに心より感謝申し上げます。

さて、本年度わが教育文化学部は、地域の活性化に貢献する人材養成を強化するために、新しい学部生まれ変わりました。新しい教育文化学部は、教員をめざす人のための「学校教育課程」と公務員や一般企業などをめざす人のための「地域文化学科」の2つから構成されています。

教員をめざす人のための学校教育課程では、子どもとじかに触れあう体験活動を1年生から系統的に配置し、子ども理解と実践力の向上を図るための新しいカリキュラムをスタートさせました。また、公務員や一般企業などをめざす人のための地域文化学科でも、大学から地域に出てフィールドワークを行う実践的なカリキュラムを充実させました。大学での座学だけでなく、地域に出て豊かな体験活動を行うなかで、広い視野と確かなコミュニケーション能力を伸ばすことができるようにしました。きっと、皆さまのご子息・ご息女が大学入学後、4年間たてば、この力を「ぐうっと」伸ばしていることを実感するに違いありません。是非、ご期待ください。今後とも新しい教育文化学部へのご支援・ご協力を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

### 大学・学部関係行事予定(平成27年3月～)

- 3月 22日 秋田大学卒業式
- 4月 1日 前期開始
- 4月 2日 春季休業終了
- 4月 3日 在学生ガイダンス
- 4月 5日 入学式
- 4月 6日 新入生ガイダンス
- 4月 7日 前期授業開始
- 6月 1日 創立記念日
- 8月 11日 夏季休業開始(9月27日(日)まで)
- 9月 28日 前期終了
- 9月 28日 後期開始
- 12月 26日 冬季休業開始(1月8日(金)まで)
- 2月 19日 春季休業開始(4月3日(木)まで)
- 3月 22日 卒業式
- 3月 31日 後期終了

### 秋田大学教育文化学部・教育学研究科 後援会情報誌

ひだまり  
Vol.6

平成27年3月1日発行  
秋田大学教育文化学部  
地域連携委員会  
〒010-8502 秋田市手形学園町1番1号  
平成22年3月1日創刊  
<http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman>